

令和6年度第2回はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード 会議録

日時 令和6年10月12日（土）14:00～

会場 八戸市公民館2階会議室

<次 第>

1 開 会

2 会 議

(1) 報告事項

①上半期の主な事業の取組について…事務局

②下半期の主な事業の取組について…各課（館）

(2) 議題

令和7年度の文化芸術施策の方向性について…事務局

3 その他

4 閉 会

1. 開会

- ・ はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード規則第5条第2項により、委員の過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告。
- ・ 配布資料の確認

2. 会議

（委員長）

- ・ みなさん、こんにちは。
- ・ それでは、第2回はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード会議を開会したいと思います。
- ・ 今日は、大変良いお天気です。外では「三陸国際芸術祭」を開催されておりますし、きっちり会議を済ませたいと思います。
- ・ それでは、さっそく次第に従いまして進めて参りたいと思いますけれども、最初は報告事項①の上半期の主な事業の取組について、こちらは一括して事務局から報告をお願いします。

<報告事項>

（事務局）

- ・事務局の文化創造推進課、グループリーダーの大西です。
 - ・事務局より、一括して上半期の主な事業の取組についてご報告いたします。
資料1ページをお開きください。
 - ・文化創造推進課事業では、第1回「はちのへアート広場」ひろば交流会を開催いたしました。
 - ・7月19日に開催いたしまして、今回はテーマとして「クリエイティブビジネスの振興について」をテーマにしました。内容は記載のとおりですが、伝統工芸や障がい者アートの魅力と価値の発信の手段として、商品のパッケージや広報物デザインへ活用などがされていて、広く交流会の中で議論をいたしました。
 - ・コーディネーターには、太下委員長、パネリストには、市内で文房具の関係をやっております株式会社金入の金入社長、株式会社ニューモアの宮島様になります。
 - ・参加者は25名となります。
-
- ・続きまして、2ページをお開き下さい。
 - ・2ページ下段、ブックセンターの事業の中で、ギャラリー展がございますが、その中で、「tupera tuperaのかおてん 裏側展」、こちらは美術館の企画事業との連動企画で行いました。
 - ・それから、本のまち連続講座を、新規の事業として開催いたしました。
 - ・テーマとしては、宮沢賢治が1件と、マイケル・サンデルが1件の連続講座を開催いたしました。
-
- ・続きまして4ページをお開き下さい。こちらは、3ページから続く、「はっち」の事業の報告となりますが、その中で1件、新しい企画がございますが、3番の共生社会プロジェクト 盆踊りディスコを開催いたしました。日時は、ワークショップを8月8日に開催し、イベントは同月23日に開催いたしました。
 - ・こちらの概要としましては、障がいの有無、年齢等を問わず、プロジェクト大山や泉彩菜さんを講師に迎え、音楽と踊りをみんなで一緒に楽しむという盆踊り企画です。大学や福祉施設などの協力を得て、半てんやうちわなどの小道具の作成などのワークショップを行いました。人数等は資料記載のとおりです。
-
- ・続きまして、6ページの下の方、美術館の事業になります。②巡回展「tupera tuperaのかおてん。」を開催いたしました。こちらは、絵本やイラストレーションを中心に活動するユニットであります「tupera tupera」さんによります、「顔」をテーマに

した展覧会を開催いたしました。時期もちょうど夏休みにかかる時期でございまして、親子連れの方が多くみられました。観覧者数は、記載のとおりですが、大変多くの方にお越しいただきました。

- ・ 合わせまして、県内の5つの美術館・アートセンターが協力して「AOMORI GOKAN アートフェス2024」を開催いたしました。期間としましては、4月13日から9月1日までの期間で開催いたしました。多様なジャンルの作品展示やワークショップを通して、アーティストとの出会いを楽しむ、という内容で、観覧者数は68,430人となっております。

- ・ 次は8ページをご覧ください。社会教育課の部分ですが、事業の中の2つ目、国重要無形民俗文化財「八戸三社大祭の山車行事」指定20周年記念事業を開催いたしました。こちらは、平成16年の国重文指定20周年を迎え、八戸の風土や歴史を学ぶ機会を提供し、祭に対する理解を深めるとともに、社会情勢の変化により顕在化した課題の解決と将来への確実な保存継承を目指すための事業を実施したものです。

- ・ 横断幕の掲示ですとか、重要無形民俗文化財指定20歳（はたち）の記念出前講座の開催、記念講演会などを開催いたしました。

- ・ 続きまして9ページです。こちらは是川縄文館の事業を記載しております。この中で、企画展示2件を報告いたします。

企画展「縄文・かたちの美－是川遺跡の土製品」です。是川遺跡から出土した土偶・土製品の形や装飾の多様さを紹介するという内容で、4月1日から5月6日まで開催いたしました。合わせまして、夏季特別展「縄文の編み/組みの探究」ということで、3年間にわたる共同研究により明らかになった、中居遺跡から出土した藍胎漆器、繊維・編組製品の素材や製作技法を紹介し、縄文時代の植物利用や資源管理を探究するというもので、7月13日から9月8日まで開催したものです。

- ・ 続きまして10ページをお開き下さい。こちらは図書館の事業となっております。

- ・ 図書館の方は、昨年のアドバイザリーボード会議でもお話があったかと思いますが、施設の冷房設備大規模改修ということで、そのため3月1日から8月7日まで休館をしたものです。

- ・ その間の代替サービスといたしまして、YSアリーナでの新聞・雑誌等の閲覧ですとか、臨時貸出、おはなし会をブックセンターで開催するなどいたしました。

- ・ そのほか、図書館150周年記念のネームプレートの作成などを行っております。

- ・続きまして、11ページです。博物館の事業になります。
- ・こちらは特別展の開催ということで、夏季特別展「きらめく八戸ー写真・新聞で見る昭和40年代ー」という企画展を開催しております。期間は7月20日から9月16日で、ちょうど夏休みにかかっている期間ですが、入館者数は5,160人となっております。
- ・説明は以上となります。

(委員長)

- ・はい、ご説明ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご意見・ご質問はありますか。

(委員)

- ・ご報告ありがとうございます。八戸市美術館に関して、「AOMORI GOKANアートフェス2024」について、大変画期的な催しだったと思います。資料で、来場者数等の報告は拝見したのですが、それ以外に内輪の実績として、5館でこの行事を実施するにあたって、学芸員とかそれに関係する人の横の連携もあったと思いますが、そういう人的交流から生まれた成果のようなものがあれば、詳しく教えてください。

(美術館)

- ・八戸市美術館の宗石です。人的交流の成果ということで、「AOMORI GOKANアートフェス」はキュレーターを置かないで、各館の学芸員の代表者が集まってつくりあげたものですが、普段それぞれの館に居ると、直接相談もできない中で、こういった機会を持ちましたので、幾度となく県の方に集まって顔を合わせて、それぞれの取組について相談することができましたので、そういった面では横の連携が取りやすくなったと思います。
- ・また、教育の面でも県立美術館の方で、学校現場に配布する一冊のワークブックを作成したのですが、中身については各館の取組内容のシートを挟んで使うという形になりましたが、そういった各館の取組というものが共有される事業になったと思っています。

(委員)

- ・ありがとうございます。今回できた横の連携が継続するようにしていただきたいと思いました。やはり、単独の美術館にだけ居ると知り得ないというか、経験し得な

いことがあると思いますので、そういった連携や共有を通して、今後、市美術館の在り方を考えることにもなるといいますし、青森県全体のアート事業や構成を共有しながら進めていただければと思っております。

(委員長)

- ・確かに、5館は運営形態もそれぞれ違った形になっていますよね。直営だったり、指定管理だったり。そういうことも含めて互いに知るといことは大事ですね。
- ・ほかに、ご質問・ご意見はございますか？

(委員)

- ・是川縄文館の展示について、伺います。周知チラシについて、前回もカラフルで見やすくなっていて良かったと思ったんですけども、今回もおしゃれなデザインだと思いました。この来場者数は、もしかしたらチラシの効果で増えたということはありませんでしょうか？すぐに効果は出ないかもしれませんが、質問させていただきました。

(是川縄文館)

- ・是川縄文館の間と申します。昨年度ご意見をいただきまして、いろいろデザイン等工夫して、今年度の夏季特別展のチラシの参考にさせていただいております。今年度の特別展は、内容的な点ですごく興味を持たれる方が多くて、入場者数も増えたのかなと思います。
- ・ただ、やはり単一なチラシではなく、いろいろ変化させていく。具体的な数字でチラシの効果は把握しておりませんが、ご意見を参考にさせていただきながら、たくさんの方の目に触れるように、今後も、チラシでの周知や情報発信をしていきたいと考えております。

(委員)

- ・八戸にも海外や全国からいろいろな方がいらしていると思いますが、新幹線の駅から主にバスで移動するときは楽なのですが、市内で移動する際に、一方通行も多いため、どのバスに乗ったら良いか分からないということがあります。特に年配の方などは困ることもあると思います。街の公共交通、特にバスの表示などについては、どのようになっていますでしょうか。

(観光文化スポーツ部次長)

- ・私、観光課長でもありますので、私の方から回答させていただきます。
- ・バスの表示、案内につきましては、八戸市の地形の特徴から、いわゆる都心環状線のようなものは無く、しかしながら中心街に様々工夫をして、例えばマチニワでの案内表示など行っているのですが、そして実はバスも10分おきに中心街に入ってきております。
- ・ただ、そのことが利用者に十分に伝わっていないという現状がありまして、少しご質問の中身からずれるかもしれませんが、外国人への案内はどうなっているだろう、と。
- ・バスの案内のみならず、交通の案内、そもそもは観光ナビとしてきちんとなってるのか。単純に早い、とか近道という案内でなく、適切に自分がどう時間を過ごせるかという案内までなっているのか、ということはですね、正直、時間の過ごし方が伝わっていないと感じております。
- ・それでどの方向にするかということについては、バス事業者等と連携していく必要があるのですが、観光課としては、観光ナビとしてインバウンド含めてどうするのか、ということについては、はちのへ観光DMOである「VISITはちのへ」の案内もあるんですが、それを見直して、それが利用者に時間の過ごし方として伝わっていけるようにしたい。
- ・ご質問に対して話が大きくなってしまいましたが、我々地元民が思っている以上に便利さが伝わっていないということは把握しておきます。

(委員長)

- ・観光庁系の補助金も、今いろいろありますので、吟味していただければと思います。ほかに何かご質問はありますか。

(委員)

- ・美術館の企画展とか、コレクションラボ、非常に充実していると思います。
- ・いつも、学芸員さんが非常に頑張って企画されていると思います。せっかく企画をされて、たぶん継続的に行うコレクションラボは、八戸の地域文化に関わるというテーマなので、継続して行えばその蓄積を何かまとめたものとして見たいという要望です。
- ・と申しますのが、八戸市美術館のサイトを見ますと、アーカイブ・刊行物のとこ

ろに、年報という事業報告書は上がってきておりますが、研究紀要とかが項目はあるのですが、まだ中身が無い。これから発行される可能性があるのかどうか、ということもお伺いしたいのですが、事業報告はこのアドボ会議でも何度も説明いただいておりますが、我々も市民の方々も把握されていると思いますが、そこで専門人材である学芸員さんがどのように調査をして、その結果を分析して、考察したという、研究のまとまりのようなものも今後必要ではないかと思います。

- ・それが八戸市美術館の独自性になるだろうし、やはりラーニングというか、教育の部分にも力を入れているので、そこにも波及してくるのではないかと考えているので、質問プラス要望なのですが、伺いたいと思っております。
- ・あと、学芸員さんの人材協力というか、スキル向上というか、そういった部分にも関わってくるのかなと思います。

(美術館)

- ・美術館の宗石です。現在、ホワイトキューブでの大規模展覧会については、図録という形で「まとめ」が発行されております。ホームページには掲載されておりましたが、そちらは販売もしており、アーカイブとして残しているところです。一方、ご指摘のとおりラボをまとめた結果というか、冊子のようなものは発行しておりません。ご意見をいただきましたので、検討したいと思います。おっしゃるとおり、これだけ蓄積されていると、一つにまとまっているものとしては、学芸員一人一人がまとめたファイルは残っていきませんが、一冊にまとめたものは現在無いので、大切なことだと認識しております。
- ・大久保景造展なんかでも、小倉委員からも勿体ないね、とご意見をいただいております、自分達でまとめたいので情報を提供してほしい、というようなお声がありまして、そちらについては市が発行するものではないですが、市の重要な文化の内容ということで一部入れていただけるというお話になりました。ありがとうございます。

(委員)

- ・まとめた資料があると、ここにいる人達以外も情報を共有できるということと、研究したい方やもっと深く知りたい方のためにも、そういったものがあると市の財産になるので、ぜひ前向きにご検討いただければと思います。

(委員長)

- ・せっかくコレクションラボでコレクションの研究をし、成果を発表されているので、作業が加わると大変なんだけど、せっかくその勢いというか、やった経験がホットなうちにまとめて「紀要」があると良いと思います。ただ紀要はタイミングもあるし、ウェブ上だけでもできれば良いと思います。
- ・紀要は美術館にとっても大事だと思うんですけども、小規模館にとってはかなり大変だろうと思います。
- ・私も、以前に国立美術館の理事をやっていたときに、各館で出しておりましたが、今はやっていないと思います。相当、ハードですね。
- ・例えば、さきほど川守田委員がおっしゃっていたように、5館連携で人の繋がりも出来たので、5館連携で紀要を出していくとなると、各館の負担感も下がるし、経費も削減できると思うし、クオリティも上がると思います。
- ・学芸員の方って、ずっと現場にいたいって方と、いずれアカデミックな方向に進みたいという方も一定割合いるので、紀要にクオリティの高い論文を出していくってすごく大切なことなんですね。
- ・そういった意味でいうと、それをどう持続していくかってことは、皆さんでご検討いただいても良いかもしれませんね。
- ・他に、何かコメント、ご質問、ご意見はございますか。

(委員)

- ・さきほど、自分の活動が話に出ましたので、少し説明させていただきます。
- ・川守田委員の意見にもありましたとおり、ある企画をやって、次に関連する方が継げるようにしていかなければならないと思ひまして、「大久保景造展」はかなり細かい調査をしたうえで、テキストの多い展覧会でしたので、美術館の方にご相談して、私はデザイナーと一緒に仕事をしていますので、美術館では普段から忙しく手が回らないということで、それを民間がサポートするというか、今計画しているのが、A1の両面で少しデザインを入れて、画像も多くして、展覧会の内容と目録というものを載せるものです。
- ・展覧会のキャプションを主に使うので、さらにそこから深掘りして調査をまとめた研究紀要とは違うんですけども、次に繋がるもので、どちらかというと研究紀要のビジュアルも含めた一般向け、普及と残すものとの間という感じのものです。
- ・それを、協力していただいて、情報提供していただいて、こちらで作る場合は、私達は、デザイナーと一緒に、ある意味有志でやるので、そんなにお金もかからず、100円

とか200円とかで一般向けに販売して、そこで得た利益は、これを作るのに、八戸工業大学感性デザイン学部の学生をバイトで雇って、学生も、感性デザイン学部を卒業してもデザイン系に進む人がものすごく少ないです。その理由の一つは、実務経験が少ないからで、そのデザイナーと一緒に冊子を一冊作るということでも実務経験になるので、販売で得た利益はバイト代に充てるという仕組みです。

- ・ 誰かが一生懸命調べてやったものを、展覧会が終わっても、その後に残したり、普及させるために物を作りつつ、そこで人材育成もできればよいな、というようなプロジェクトになります。
- ・ これは、第1回目が「大久保景造展」で年内にできると思います。
- ・ その後、美術館に限らず「はっち」でやっている企画展とか、民間がやっている展覧会とか、ちょっとこれは市のために残さないとならないものについては、話を持ち込んで制作するというようなことを、いま始めたところです。

(委員長)

- ・ 100円、200円の販売で事業費は賄えるんですか。

(委員)

- ・ バイト代と、印刷代の部分ですが、完売すれば賄えるかなといった感じです。
完売しなければ、2~3万円ぐらいは団体で補填します。
- ・ デザイナーは報酬無しですので、なんとかやっていけるかな、と考えております。

(委員長)

- ・ 素晴らしい取組だと思います。

(委員)

- ・ 「はっち」の共生社会プロジェクト 盆踊りディスコについてですが、本当に興味深いと思ひまして、大学や福祉施設などの協力もあって、このような企画になったということですが、もう少し具体的に、どのようなワークショップであったり、盆踊りのところ、障がい者がイベントで25名参加とありますが、身体とか、聴覚とか視覚とか、そのあたりがどうだったのか。そこへのサポートは、どういう体制で実現したのか、など伺いたいです。

(八戸ポータルミュージアム)

- ・八戸ポータルミュージアムの佐々木です。ただ今のご質問についてお答えいたします。
- ・まず、盆踊りディスコは、今年度初めての開催ということで、いろいろ手探りという状況の中で、サポートも含めてどのように行うかという点について、基本的に素人のようなところから始めました。
- ・大学の具体的な支援という部分については、八戸学院大学に「大木ゼミ」という福祉関係の勉強をしているゼミがありまして、大木先生とそのゼミ生の皆さんに、実際にボランティアスタッフとして協力いただきました。
- ・福祉施設につきましては、そもそもこのようなイベントを開催するに当たり、どういう内容だったり、時間帯だったり、多くの人に参加していただきたいので、例えば「盆踊り」といったら夜のイメージがありますが、昼の方が集まりやすいとか、そういった部分を含め、最初から作り上げていった感じです。
- ・実際、参加者73名のうち25名が障がい者ということですが、障がい者の施設ごとに参加いただいて、日常サポートしている職員の方にも来ていただくことで、参加者へのケアという点では、そこをクリアしたという感じです。
- ・身体的な障がいをお持ちの参加者は少なかったです。知的障がい者の方がほとんどだったと思います。以上です。

(委員長)

- ・初めての企画だったということですが、いい企画だと思いますので、ぜひ継続していただきたいと思います。
- ・ほかに、ご質問等ございますか。
- ・ひととおり、ノルマが達成されたという感じでしょうか。
- ・続きまして、②下半期の事業の予定について報告をお願いします。こちらは、これから事業ですので、各館・各施設ごとにご説明いただいて、それぞれで委員の皆さんからご意見・ご質問等を受ける形で進めたいと思います。
- ・では始めに、文化創造推進課からお願いします。

(事務局)

- ・文化創造推進課です。資料13ページをご覧ください。
- ・下半期の主な事業の取組ということで、まず、今年度第2回目の「はちのへアート広場」を開催します。

テーマは、仮称ですが「地域に根付く伝統芸能について」ということで、伝統芸能をテーマとして取り上げたいと考えています。

- ・日時の方が資料では年内となっておりますが、太下委員長と調整しまして、12月8日の日曜日、14時からということで進めております。

- ・会場の方は選定中でございます。

- ・内容としましては、当市には「三社大祭の山車行事」ですとか、「八戸えんぶり」の他、鮫神楽や法霊神楽等、歴史ある祭りや伝統芸能がございます。そして、多くの市民の関わりの中で、大切に維持・継続されております。

一方、これらの伝統芸能については、受け継ぐ者の育成、保存・継承、参加の輪を広げる仕組みづくりに向けた取組などについて、皆さんで話し合うことを目的に開催するものです。

- ・第3回については、来年2月ごろを予定しておりますが、詳細はこれから調整いたします。

内容としましては、「はちのへアート広場」が2年ほど開催して参りましたので、これまでの交流会のまとめ、振り返りをテーマとして開催したいと考えております。

- ・続いて3番ですが、石見神楽～八戸公演～です。本日、三陸国際芸術祭が開催されておりますが、こちらの開催が昨年決まった際に、この開催を機会にということで企画したのですが、本来であれば、同日に開催したかったのですが、石見神楽側との調整で、来週10月19日、土曜日に、ここ八戸で上演することになりました。

会場は、公民館ホールですので、こちらの建物になります。

- ・4番として、八戸南部氏庭園「秋の開園」になります。こちらは、毎年、春と秋に開園しております。今年は、週末に加えて、24日（木）から10月末まで期間を延長して開園いたします。観覧料は無料で、この開園期間のうち、週末は園内を説明していただけるガイドさんにも張り付いていただいて、ガイド料も無料で開園いたします。
- ・続いて、14ページをご覧ください。2件ほど、学会関係とフォーラムについてご報告いたします。

- ・まず、「生活文化創造都市フォーラム」というものが開催されます。一般社団法人日本ファッション協会さんからのご案内がありまして、市と商工会議所が共催となって開催するものです。

- ・日時は、来年の1月23日で、会場は「はっち」1階のはっちひろばで開催いたします。

テーマは、「本のまち八戸」を予定しております。

講師としまして、大阪市立大学の佐々木雅幸先生ですとか、横浜市立大学の野田邦弘先生、その他パネリストの方がいらっしゃるということで、岡山市の文学創造都市岡山

推進委員の方もいらっしゃるようになっております。

- ・ 6 番、日本文化政策学会です。こちらは昨年からお話がありまして、今年度、当市で開催するものであります。

日時ですが、来年の3月15日～16日の予定となっております。会場は、「はっち」、美術館、それと市公民館となっております。参加人数は、100名程度と伺っております。

- ・ 文化創造推進課は以上となります。

(委員長)

- ・ ご説明ありがとうございました。ただ今のご説明に対し、何かご意見・ご質問はございますでしょうか。

(委員)

- ・ 最後に、話題に出していただきました、日本文化政策学会第18回年次研究大会、開催が来年の3月15日～16日ですけれども、太下委員長や私も入っている学会なのですが、2人ともプログラム委員会というものに入っておりまして、学会に向けてのプログラムを組んでいて、だいぶ固まってきたところですが、テーマに関しても一応決まりました。「縮小社会の地方創生と文化のデモクラシー」というテーマになっています。地方創生というと、2014年ぐらいから言われておりますが、今、石破さんが総理になっており、初代の地方創生担当大臣であったということと、今キーワードとしてかなり話題になっていてテーマにふさわしいのではないかと、ということと、青森、八戸という地方における課題について、文化政策がどのように貢献できるのか、ということがテーマになると思います。
- ・ 会場である八戸市さんには、いろいろご協力をいただくことになると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げますということと、シンポジウムや企画フォーラムなど、市民の方にもご覧いただけるプログラムもありますので、広く広報して八戸に多くの方に来てもらえるよう、また市民の方にも楽しんでもらえるような大会にできれば、と考えております。

(委員長)

- ・ 私からも、よろしくお願いします。
- ・ また、この機会に八戸の文化の発信もこの学会の中で発表できればと思います。
- ・ 他はよろしいですか。

(委員)

- ・12月に公民館ホールを使う予定がありまして、公民館・公会堂って、名前が「SG GROUP ホール はちのへ」に変わりましたよね。

それで、事務局資料では、SG GROUPホール はちのへ（八戸市公民館ホール）って書いてあるんですけども、公民館の方からは名称についてという紙を渡されて、そこには公民館のホールを使用する場合は、SG GROUPホール はちのへ（八戸市公会堂文化ホール）と表記してくださいって書いてあります。

公民館なんだけれども、公会堂の文化ホールになったということでしょうか。

(事務局)

- ・お答えいたします。条例上は、八戸市公民館であり、八戸市公民館ホールとなります。それで、SG GROUPホールはちのへというのはネーミングライツによる特定呼称です。これが始まる以前からの愛称が、八戸市公会堂に附属しているホールという意味だと思われませんが、八戸市公会堂文化ホールと名付けられております。

なので、2種類の呼び方が混在している状況です。八戸市公民館ホールと呼ぶ方もいれば、八戸市公会堂文化ホールと呼ぶ方もおります。なので、指定管理者も両方使っているという感じです。

- ・それで、SG GROUPホールはちのへの後ろにつけるホール名につきましては、かっこ書きで、八戸市公民館ホールと記載する場合と、八戸市公会堂文化ホールと記載する場合の両方を認めております。

ただ、どちらのホールか分かりにくいということで、文化創造推進課としては、市の公民館ホールと記載するよう案内はしております。

- ・今のご質問ですと、当課の認識と指定管理者の認識がずれていたということだと思いますので、そこは調整したいと思います。
- ・結果的には、どちらでも良いということなんですけれども、それだと利用者が混乱するということですので、改めて調整したいと思います。

(委員)

- ・公会堂文化ホールという名前は以前からあったのでしょうか。

(事務局)

- ・以前より使用しています。ただ、条例上の呼称ではなく、あくまで通称です。

(委員長)

- ・ネーミングライツを契機に、新たな課題が浮き彫りになりました。東京でもありましたけど。渋谷公会堂が、CGレモンホールとなって、誰もどこかが分からないという。今、また LINE ホールに変わりましたけれども。
- ・他に何かございますか。よろしいですか。
- ・それでは、次にブックセンターさんお願いします。

(ブックセンター)

- ・ブックセンターの音喜多です。よろしくお願いします。
- ・私の方から、ブックセンターの下半期の主な事業について報告いたします。
資料15ページになりますが、「元気な八戸づくり」市民提案制度企画「本のまち八戸」魅力創出事業を挙げております。
- ・こちらですが、下の方に米印で記載しておりましたが、市民の皆さん（提案者）と市（行政）が協働して取り組む事業です。事業を実施することで相乗効果を期待して、募集から採択までという経緯もありますが、今回は市内の読書団体である、八戸市読書団体連合会と市、ブックセンターと図書館が連携して協働して開催するものです。
- ・開催日が、令和7年2月9日（日）、会場は SG GROUPホールはちのへの公会堂の方で開催します。
開催内容は、記載のとおりですが、公会堂大ホールでは、池上彰さんをお呼びして、読書の楽しみをテーマとしたトークイベント、それから学生さんを取り込んで、高校生を選抜してステージに上がってもらって、テレビ番組のように、池上さんに質問して答えてもらうというようなことをイメージした企画内容となっております。
- ・同日開催として、展示ホールなどを利用して、図書館ではリサイクルブックフェアを開催する予定です。こちらは、除籍本の放出ですが、毎年1回図書館で開催しているものですが、今年に限っては、今回のイベントに併せて開催するものです。
- ・それから、さきほど報告もありましたが、図書館150周年記念と「本のまち八戸」を紹介するパネル展も開催いたします。
- ・あともう一つは、会議室のような場所をお借りして、子ども向けのおはなし会ということで、本に特化したイベントを集中的に開催しまして、市民の皆さんに本に触れてもらうきっかけ作りを予定しております。
- ・ブックセンターは以上です。

(委員長)

- ・ はい、ありがとうございました。ただ今のブックセンターの説明について、何かご意見・ご質問はございますか。
- ・ 高校生のビブリオバトルも面白いですよね。
- ・ それでは、続いて八戸ポータルミュージアム「はっち」より報告をお願いします。

(八戸ポータルミュージアム)

- ・ それでは、「はっち」の文化芸術の施策について説明いたします。資料の16ページをお開きください。
- ・ まず一つ目ですが、パフォーミングアーツ公演事業です。今年度は3回開催を予定しておりまして、第一弾は9月7日～8日、タテヨコ企画さんの演劇公演が終了いたしましたけれども、今後12月7日～8日には劇団「パンチェッタ」さんの演劇「声」を上演する予定としております。
- ・ また、この機会に併せまして、出張ワークショップ アウトリーチを、12月4日と5日には、北稜中学校の1年生の皆さん、65名の皆さん向けにワークショップを行う予定としております。
- ・ 続いて、パフォーミングアーツ公演事業の第三弾として、アトリエ・センターフォワードさんの演劇、2人芝居になりますけれども、「演劇落語～宿屋の仇討ち・抜け雀」という演劇の上演を予定しております。こちらは、3月1日、2日の土日を予定しております。
- ・ アウトリーチにつきましては、現在募集中でございます。
- ・ 続きまして、はっちアーティスト・イン・レジデンス2024です。人間ノリ巻き in 八戸ということで、公募で選出いたしました。アーティストの今井さつきさんに来ていただいて、テーマとして「人間ノリ巻きin八戸～サバからせんべいから高山植物まで！八戸の皆さん、巻かさってください！」ということで、実施概要としては、八戸に5月から7月まで滞在して、そこで見つけた八戸の魅力を「人間ノリ巻き」の「具材」として作ります、ということで、資料の写真にありますとおり、もちろん本物のノリ巻きではございません。布とか、そういったもので作ったものを具材として作品化しており、人間がそこに巻かれているという、今井さんの作品の八戸バージョンということで実施するものでございます。
- ・ 布で作ったり、プリントした布を塗ったりしながら、食べ物だけでない八戸の魅力をリサーチして、実際は菊巻きのリサーチとかも行い、作品化して市民の皆さんを巻き込み、人間ノリ巻きを完成させる、という内容になっております。

- ・第1期は、5月15日から7月2日まで滞在していただいたのですが、ホコテンが開催された日には、ノリ巻き体験を開催し、親子連れなど、楽しんでいただいたと感じております。
- ・第2期の滞在が、10月26日から11月4日までとなっておりますが、この2期目の滞在中に菊巻きをリサーチするということで、第3期の1月中旬から2月中旬には成果発表展と記載しておりますが、その前に、市民の方と一緒に具材を作るということで、1階のスペースで作品を作っていくということを予定しております。
- ・文化芸術施策につきましては以上になりますけれども、17ページにはっちの下半期の主な実施事業を掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。
- ・その中で、一つご紹介させていただきたいのが、はっちのチラシですが、11月4日に開催します、ダンスキャラバン イン アオモリという企画のチラシをご覧ください。
- ・こちらは、はっちのシアター2で開催するものですが、主催が国際障害者交流センター ビッグ・アイさんとなっております。さきほど共生社会プロジェクトの際に、市内外の方からさまざまアドバイスをいただきまして、その中で、ビッグ・アイさんとは、はっちスタッフが昨年研修を受けたというつながりもあって、ビッグ・アイさんの方から青森県内での開催の打診があったものです。
- ・ダンサーとしましては、八戸市在住で、国内外で活躍しておりますRINKAさん。韓国からお越しいただくYELLさん。この方は聴覚に障がいをお持ちの方です。この方々を講師に迎えまして、障がいの有無に関わらずダンスを楽しもうというイベントになっております。
- ・参加者につきましては、すでに締め切っております。定員20名のところ28名の申込みをいただいております。結果的に全員参加できることになりました。
- ・また、この企画は県内で2回目とのことで、1回目の際には、障がい者の方の申込がほとんど無かったようで、今回は共生社会プロジェクトの盆踊りディスコ企画の際にもチラシを配布したこともあって、その効果かどうかは分かりませんが、障がい者の方からも10名ほど参加されるということです。
- ・はっちからは以上となります。

(委員長)

- ・ただいまのはっちの説明について、何かご意見・ご質問はございますでしょうか。
- ・ちなみに、僕はビッグ・アイのことは良く知っていて、もともと厚生労働省の施設で、今は大阪府に移管されておりますが、日本で最高レベルの障がい者施設ですね。
- ・それで、プロデューサーの鈴木さんという方がいらっしゃって、日本全国、アジア

も含めて、このようなワークショップを繰り返しながら、障がいの有る人も無い人もうまく育てていって、その中から選抜チームを編成して全国レベルの作品を創っていくという活動をされております。

- ・もしかしたら、来年万博があるので、万博で使いたい作品の下地づくりとしているのかもしれないですね。
- ・ぜひ、いい成果が出来ることを期待しております。

(委員)

- ・ダンスキャラバンや、前回の盆踊り企画も含めて、初めての企画の立ち上げでは、さまざま苦労が多かったと思いますが、いろいろ蓄積されていって、新たなものが生まれていくことは大変素晴らしいと思いました。
- ・アーティスト イン レジデンスについて、今川委員と一緒に選考委員で関わりがありましたので、少しコメントさせていただきます。
- ・コミュニケーションをベースにした作品を作られている今井さんというアーティストの方で、今回は八戸の「食」にテーマを絞って作品を作られているので、普段、アートにそれほど馴染みのない方でも、食という切り口で触れるということも発生しやすいのかなと思いますし、食を切り口にして地域の方とコミュニケーションを取ったりとか、というようなことも発生していくことがアートの面白さなのかなと思いますので、ぜひ皆さんも巻かれてください。

(委員長)

- ・ほかに何かございますでしょうか？
- ・よろしいでしょうか。それでは、美術館からお願いします。

(美術館)

- ・美術館の下半期の主な事業についてご説明させていただきます。
- ・1 ページ目の展覧会や、2 ページ目のアートファーマープロジェクト、学校連携プロジェクト、3 ページ、4 ページ目の大学・高専連携プロジェクトとなっております。
- ・下半期も上半期と同様で、資料に掲載しきれないほどの事業を実施する予定ではありますが、中でも主な事業として4 つほどご説明させていただきます。
- ・一つ目は、企画展「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」でございます。

会期は本日、10月12日から来年1月13日までを予定しております。本展では、当館が所蔵する八戸での教育版画を中心にして、教育版画が生まれる礎となった県内の版画

教育の実践を紹介させていただきます。

- ・また、収蔵品の中でも、皆さまから最も人気のある作品を展示させていただきます。これに加えて、版画をルーツとするアーティスト、ザコピートラベラーズさんですが、主に夏休み中に、5日間かけて子ども達と制作した作品を展示しております、その制作風景も動画で見いただけます。また、ワークショップ、音楽イベントと多彩な企画を用意しております。

詳しくは、皆さまにお配りしております、色合いにもこだわったちらし、少し黄色がかった白となっており、裏面にも関連イベントを載せておりましたので、後でご覧いただければと思います。

- ・なお、「虹の上を飛ぶ船」のシリーズを一堂に展示するのは、旧美術館での展覧会以来20年ぶりとなるということで、先日、内覧会がございましたけれども、皆さん、見応えがあるということで大変好評でございました。
市の収蔵品だけでなく、県立郷土館などから作品をお借りしてきたものも展示させていただきます。
- ・二つ目は、開館3周年記念企画です。今秋に3周年を迎えるという当館ですが、初めて美術館においでいただいた方にも、また何度も来ていただいた方にも満足いただけるような企画を準備しております。
- ・教育版画については、学芸員によるトークと、作品から想起される音楽を即興で奏するという青森県出身の音楽家のharuka nakamura(はるか・なかむら)さんによるピアノ演奏、また、展覧会とプロジェクトを両輪に展開されている八戸市美術館の3年間で写真と映像で振り返るアーカイブ展を予定しております。
- ・三つ目として、「風のなかをとぶ種子」の出張授業についてです。展覧会期間中、希望する小中高校へ出向き、出張授業を行うものです。授業を行うことで、郷土の美術作品について学ぶ機会を持ってもらうということと、美術館に足を運んでもらうきっかけにしたいと考えています。
- ・四つ目といたしましては、資料には記載ございませんが、八戸市美術館中期運営計画というものを令和2年3月に策定して、それをもとに事業を進めてきた訳ですが、今年度が評価、そして次年度からの計画の改定の年度となっております、その作業を今進めているところです。今月29日に、運営協議会を開催する予定でございまして、3月にも運営協議会を開催する予定なのですが、評価について、評価アドバイザーということで、九州大学大学院芸術工学研究院の中村美亜教授にお願いしまして、評価についての支援を受けて評価案を作成しております。
- ・美術館からは以上でございます。

(委員長)

- ・ はい、ご説明ありがとうございました。ただ今のご説明について、何か、ご意見・ご質問はございますか？

(委員)

- ・ ご説明ありがとうございます。18ページの(1)の②八戸アーティストファイル展について質問ですが、その対象となるアーティストの選考基準、選定プロセス、今回初回が8名の方が出展されるということですが、今後の見通しについて伺いたかったのですが。

(美術館)

- ・ 八戸アーティストファイル展ですが、こちら選考委員という肩書では無いのですが、選考に関わってくれた方々がおりまして、その中には東方委員と小倉委員もおりまして、そちらの方々と美術館とで、圏域在住の方6名、圏域出身で県外在住の方2名が良いのではないかといいところまで決まっております、現在、その資料集めや、内容について本人からお話を聞く機会を設けたり、準備を進めているところです。
大澤学芸員が担当学芸員となっております。

(委員)

- ・ 資料の説明では、出展する表現者は、市内の民間画廊やギャラリー、画材屋、私立美術館とありますが。

(美術館)

- ・ 帆風美術館の吉田館長や、八戸彩画堂の松田社長などです。

(委員)

- ・ そうすると、ジャンルは美術ということになりますか。

(美術館)

- ・ そうですね。美術、デザインといったジャンルですが、幅広いジャンルです。
現代美術もありますし、絵画もありますし、写真もございます。

(委員長)

- ・他に何かございますでしょうか。
- ・それでは、社会教育課お願いします。

(社会教育課)

- ・社会教育課の高橋です。
- ・社会教育課からは、今年度下半期の主な事業について、2点お知らせしたいと思えます。
- ・まず、1点目は、「民俗芸能のタベ」でございます。こちらのイベントですが、八戸の民俗芸能の団体に発表の場を設けることで、団体側には技芸技術の向上、活動の活性化を図るもの、また市民の皆さまには、民俗芸能に触れて興味関心を持っていただく機会の一つとなるものでございます。これによりまして、後継者育成や、保存・伝承に資するものと考えております。
- ・今年度は、11月30日土曜日、おがみ神社法霊神楽、笹の葉踊り、妙えんぶり組、湊虎舞が出演いたします。

お手元の方に、チラシも配布しております。こちらの方は、SG GROUPホールはちのへ（八戸市公会堂文化ホール）で開催いたします。

このホール名につきましては、社会教育課はずっとこの名称を使用しております。

なお、広報はちのへには公民館ホールと記載されるようです。庁内では、どちらを使用しても良いということになっていたようです。

- ・こちらの「民俗芸能のタベ」に関しましては、昨年度アドバイザリーボード会議において、周知不足ではないかといったご意見もいただいております。

今年度につきましては、これまでどおり広報、ポスター、市ホームページへの掲載のほか、ポスターにQRコードを掲載し、市のホームページにも飛べるようにしたり、情報誌「Well」に記事掲載もいたしました。また、BeFM や他のラジオ局からは事前取材の依頼なども受けており、昨年度よりは周知がされていると思っております。

また、動画の配信も検討しておりますが、現時点では、出演者全員の許諾を得ておりませんので、どの程度できるか検討しております。

- ・続きまして、八戸圏域文化財魅力発信事業（文化財バトルカード）についてお知らせします。

こちらは、第2期連携中枢都市圏事業といたしまして、八戸圏域の8市町村である、八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町が合同で

取り組んでいるものでございます。

- ・お手元に、折り畳み式のA3判の資料を配布しておりましたので、よろしければ、そちらもご覧になりながら説明したいと思います。
- ・カードの概要ですが、カードが42枚で構成されております。うち40枚は各市町村のカード、八戸市分が12枚、町村が4枚×7町村分ということで、それから2枚は圏域全体にわたるものとなっております。ニホンカモシカとニホンジカということにしております。バトルに用いるのは、ノーマルカード32枚になっておりまして、文化財の種類によりまして、「天・地・人」の区分、あと能力値が指定値、推し値、レア値、時代値というものが与えられています。

あと、能力値をコントロールするスペシャルカードとして、SSカードがニホンカモシカ、Sカードが自治体一押し文化財、Dカードがニホンジカとなっております。

- ・このカードにつきましては、昨年の7月に小学校でのワークショップを皮切りに実施しまして、現在、21か所で配布を開始しております。資料の方には、配布場所も掲載しております。

圏域の担当者間で相談して事業を進めておりまして、今年度一つ目はカードの増刷、のぼりの作成、それから二つ目は、圏域内で行われる文化祭、産業まつり、文化財関連イベントの際に、のぼりも一緒に出しながらバトル体験ブースやカード配布コーナーの設置、それから三つ目は、バトルカードの遊び方やルール解説の動画を作成して、ホームページで公開したいと考えております。

- ・以上で、社会教育課の主な事業の説明を終わります。

(委員長)

- ・はい、ありがとうございました。バトルカードの異様な熱気を感じますね。
何か、ご質問・ご意見はございませんか。

(委員)

- ・バトルカードはどのように手に入れることができますか。

(社会教育課)

- ・資料に掲載されております、配布場所に行っていただく形になります。基本的には1施設で1枚ですが、町村などでかなり離れた場所の場合は、1施設で4種類お渡しするところもございます。

(委員)

- ・それぞれ回らなければならないですね。

(社会教育課)

- ・はい、周遊していただくことも目的の一つでございますので、圏域全体の活性化を目指すところも大きな目的となっております。

(委員)

- ・なるほど。これは魅力的だと思います。ぜひ回ってみたいと思います。

(委員長)

- ・他に何かございますか。これを作るのにどのくらいの労力がかかったのかと思いますね。

(社会教育課)

- ・構想から発表まで1年以上かかっております。

(委員長)

- ・よろしいでしょうか。それでは次に是川縄文館、お願いします。

(是川縄文館)

- ・是川縄文館より、令和6年度下半期の主な事業についてご説明いたします。
- ・なお、資料には多くの事業を記載しておりますが、その中から抜粋してご説明いたします。
- ・資料24ページをご覧ください。
- ・(1) 企画展示の、秋季企画展「合掌土偶国宝指定15周年記念 合掌土偶ができたころ」についてでございます。
- ・是川地区の風張1遺跡から出土した国宝合掌土偶が、令和6年7月10日で国宝指定から15周年を迎えたことを記念して、本展覧会では、風張1遺跡を始め、合掌土偶ができたころの遺跡と、その出土品を紹介し、合掌土偶を作った縄文人が、どのような暮らしをしていたのか、その様子について迫ります。

- ・こちらは現在開催中で、開催期間は11月24日日曜日までとなっております。関連イベントとして、10月26日土曜日に国立歴史民俗博物館准教授の中村 耕作氏をお迎えして、考古学講座を開催するほか、期間中の毎週土曜日に当館学芸員によるギャラリートークを開催いたします。また、体験イベントとして縄文しおり作りと、縄文プラ板ストラップ作りも開催いたします。
- ・次の、冬季企画展「縄文・かたちの美―是川遺跡の石器・石製品」についてですが、こちらは是川遺跡出土品を紹介するシリーズ展示の6回目となるもので、開催期間は12月14日土曜日から、令和7年3月23日日曜日までを予定しております。
- ・続いて（2）教育普及でございます。
24ページ一番下の、松ヶ崎遺跡現地説明会をご覧ください。調査6年目に入った、市内十日市の松ヶ崎遺跡の発掘状況を、出土品も展示しながら当館学芸員が解説いたします。
- ・また、次のページ一番上の遺跡調査報告会は、11月9日土曜日に是川縄文館内で開催いたしますが、令和5年度、6年度に市内で行われた主な遺跡の発掘調査の成果を、調査担当者が報告するもので、各遺跡からの出土品も展示いたします。
- ・最後に、25ページの（7）八戸縄文保存協会と連携した活動について、「是川縄文の日」のところをご覧ください。
こちらは、11月3日日曜日に開催いたしますが、当日は観覧料を無料とするほか、当館学芸員による常設展・企画展のギャラリートーク、各種体験コーナー、縄文グッズ・スイーツ、それから野菜の販売等を実施する予定です。
- ・簡単ではございますが、以上で是川縄文館からの説明を終わります。

（委員長）

- ・はい、ご説明ありがとうございます。ただいまの説明について、何かご意見・ご質問はございますでしょうか。
- ・よろしいでしょうか。
- ・それでは図書館の方から説明をお願いします。

（図書館）

- ・八戸市立図書館の、下半期の主な事業について、たくさん挙げておりますけれども、この中から、1番の150周年記念事業と3番の市民のための歴史講座について説明させていただきます。
- ・まず八戸市立図書館は、前身である八戸書籍縦覧所が明治7年に開設されてから、

今年で150周年を迎えることとなりました。

これは、全国的に見ても大変歴史ある図書館となります。

- ・本日、皆さまのお手元にブルーのチラシを配布させていただきましたが、詳しい歴史につきましては、当館学芸員が作成しましたこちらのチラシに記載しておりますので、ご覧いただきたいと思います。
- ・150周年を記念いたしまして、記念グッズを作成いたしました。写真も載せておりますが、トートバッグとクリアファイルとしおりを作成しております。10月1日から、図書館本館とブックセンターで販売を開始しており、トートバッグは税込1,000円、クリアファイルは税込100円となっております、しおりについては非売品となっております。講演会やお話し会に参加した皆さんに無料で配布する予定となっております。
- ・続いて（２）の150周年パネル展について、このチラシに書いてあるような内容をパネルにしまして、現在八戸市立図書館の1階に展示しております。
今、5枚のパネルを作成して展示しておりますが、今後八戸市庁本館1階エントランスホールで、11月12日から行う展示では、展示パネルを5枚から10枚に増やしまして、展示する予定となっております。
そして、最後にブックセンターとの共同で開催する2月9日の公会堂の事業の方で展示する予定となっております。
- ・続いて、記念モデル利用カードの発行ですが、図書館の利用カードにロゴマークを印刷しまして、それを限定3,000枚で発行することとしております。新規登録あるいは、こちらに置き換えたいという方にも対応いたします。こちらは、11月1日から本館と南郷図書館、図書情報センターで発行いたします。
- ・（４）は150周年記念誌の発行です。こちらは3月の発行予定で、非売品となります。県内や東北の図書館であるとか、学校などの関係団体に無料配布いたします。
こちらの記念誌は150周年ではありますが、以前に図書館100周年記念誌を発行した際に、100年間の記録が載っておりますので、今回は101年から150年までを紹介した冊子を作成する予定となっております。
- ・他にも、今年度は普段行っている事業でも、150周年記念という冠をつけて、景品に記念グッズを差し上げたりとか、おはなし会でも図書館に関する絵本を読み聞かせするなど、少しずつ何かしら関係あることを取り入れて実施しております。
- ・続きまして、3番の市民のための歴史講座のご案内をさせていただきます。お手元に水色のチラシを配布しております。こちらは、博物館と図書館で連携して開催している講座になりまして、共通のテーマをつけて、それぞれ2回ずつ担当して開催しております。

- ・今年のテーマは、図書館150周年を記念しまして、書籍と図書館というテーマになっております。

1回目が先月終わりました、2回目が今月20日に、本日出席されております、街かどミュージアムの小倉様をお招きしまして、講演会を開催いたします。皆さまにもご参加いただきたいと思います。

今後、11月と12月にそれぞれ1回ずつ開催を予定しております。

- ・図書館からは以上です。

(委員長)

- ・はい、ご説明ありがとうございます。ただいまの説明に何かご質問・ご意見がございますか？
- ・それでは、次に博物館から説明をお願いします。

(博物館)

- ・博物館から令和6年度下半期の事業概要についてご説明いたします。資料の28ページをご覧ください。
- ・主なものとしたしましては、例年どおりですが、特別展と企画展の開催、また2として体験講座の開催。あとは3番として、図書館と連携した市民のための歴史講座の開催です。こちらは4講座ありますが、1講座と4講座目が博物館の担当となっております。
- ・また、当館に隣接した、当館の野外学習場である史跡根城の広場の事業も今回掲載しております。
- ・本日は、青空の下、第29回史跡根城まつりが開催されております。今日は天気が良いので、多くの方が来場しております。
まつりでは、八戸地域の伝統芸能の発表を始め、中学生による吹奏楽、地区の保育園児による踊り発表など、様々なイベントを開催しております、多くの来場者にお越しいただいております。
- ・そのほか、当館の分館になります、南郷歴史民俗資料館でも、ミニコレクション展「そば」展を開催するほかに、体験講座も今後開催する予定です。
- ・それでは、本日博物館からご案内するのは、チラシをお配りしておりますけれども、現在開催中の、秋季特別展「境界線上の彼女たち-ねね・鶴姫・南部麻-」です。
本展では、八戸藩が歩んできた歴史の分岐点にあたり、家名を背負い、八戸という存在を守り抜くという重要な役割を果たした3人の女性に着目した展示会になって

おります。

一人目は、中世から近世、乱世の終焉を見届けた清廉の人、根城南部家当主ねね。

二人目が、幕末最後の八戸藩主を薩摩藩 島津家から迎えた正室、鶴姫。

三人目は、近世から近代へ八戸南部の血脈をつないだ女当主、麻ということになっております。

- ・ 三人とも女性であるがゆえに、彼女たちに関する記録というのは決して多くないですが、数少ない資料を手掛かりにして、それぞれの時代の背景を踏まえながら、どのように生き、何を残したか、彼女たちの実像に迫っていく内容となっております
- ・ 会期中に、講演会と体験学習会「はじめてのなぎなた」をそれぞれ2回行う予定となっております。

その他に、現地を訪ねる「八戸城下めぐりー特別編一」を開催いたします。

- ・ また、10月19日には「根城 SHOW TIME」と題したステージライブを開催いたします。内容といたしましては、「キャラクターショー」を午前と午後に1回ずつ開催します。

そのキャラクターショーの間に、千葉学園高等学校・根城小学校・長坂保育園のご協力により「戦国ファッションショー」を開催いたします。

- ・ 博物館と言いますと、どうしても年齢層が高めの方が来館されることが多いのですが、こういったショーを契機に、もう少し親子で楽しんでもらえるような企画の開催を、今後も進めていきたいと考えております。
- ・ 会期につきましては、10月5日から11月24日までの45日間となります。
- ・ 博物館の説明は以上です。

(委員長)

- ・ はい、ご説明ありがとうございました。
- ・ ただ今の説明について、何かご意見・ご質問はございますでしょうか。
- ・ これで、各課・各館からの下半期の事業についての説明は終わりとなりますが、通して何かご質問・ご意見はございませんか。
- ・ よろしいですか。
- ・ それでは、次の議題に進みたいと思いますが、はい、美術館どうぞ。

(美術館)

- ・ さきほど、アーティストファイルのところで、不意に質問を受けて、すぐに回答できなかったところがあり、申し訳ございません、少し補足させていただきます。

- ・こちら推薦者・審査員ということで6名の方をお願いをしまして、さきほど申し上げましたお二人の委員の他に、ソウルランチというカフェを運営されている吉川さんと、デーリー東北新聞社の元文化部長の松浦さん、彩画堂の松田さん、帆風美術館の吉田さんの6名の方に「プレゼンター」を依頼し、それぞれ1名ずつアーティストを推薦してもらい、また、美術館枠として2名選出していますが、八戸市文化協会からも意見を聞いて、選定させていただいた、という流れになっております。

そうして8名の方が決まりました。

- ・このアーティストファイルですが、八戸出身の表現者を紹介していこうということで、継続して、今は第1回目ということで、今後も継続してやっていこうと思っております、選定するプレゼンターの方も、次のときにはまた別の方にも入っていただいたりと考えておりました。
- ・すみません、以上です。

(委員長)

- ・はい、ありがとうございました。
- ・それでは、令和7年度の文化芸術施策の方向性について、これは事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料30ページをご覧ください。
- ・令和7年度の文化芸術施策の方向性について、ということで、事務局であります文化創造推進課の方で、前回、前々回の会議での委員の皆さまからのご指摘を踏まえまして、来年度取り組みたいと考えている内容について記載したものです。
- ・中身としましては、はちのへ文化のまちづくりプランに掲載されている施策のうち、比較的達成できているものや、達成がなかなか来ていないものを表にいたしましたけれども、いわゆる未達成の項目が多かった施策について、来年度の取組内容を記載いたしました。
- ・資料の真ん中あたり、施策3・施策4に基づくものですが、令和7年度取組内容と書いております。
- ・1点目は、文化観光の推進に向けた取組を行う、です。八戸の特色ある文化を活かし、観光及び地域活性化につなげるため、部内各課及び庁内関係課と連携し、文化観光推進法に基づく拠点・地域計画の策定を進めていきたいと考えております。
- ・2番目の丸ですが、外国人に向けた地域の文化イベント等の情報提供についてです。

こちら、委員の皆さまからご指摘をいただいております。

こちらは、大きく分けて2点ですね。いわゆるインバウンド、訪日外国人と、すでに暮らしている在住外国人の両方の視点があると思いますが、訪日外国人向けには、情報発信や多言語化対応を進めていけるように、各施設と連携していきたいと考えております。

- ・合わせて、在住外国人向けには、英語、それから調べますと、やはり中国ですとか、ベトナム、インドネシア、これは全国的な傾向だと思いますが、市内でもアジア系の方が多く住んでいらっしゃいます。そこで、英語だけではうまく伝わらない、本来であればそれぞれの言語に対応すべきとは思いますが、なかなかそこまでは至らないということで、いわゆるやさしい日本語による情報発信を行いたい。
- ・また、市内で外国人が多く勤めている企業等を通じて、周知を図っていききたい。
さらに、市の国際交流協会を通じた周知などを行っていききたいと考えております。
- ・続きまして2番の方ですが、こちら丸が2つございます。まず1つ目が、専門人材の確保、育成に向けた取組を開始するというもので、未達成の項目が多かったものでございます。まだ手付かずでございますので、まずは指導者の掘り起こしを行う、それから部活動の地域連携・地域移行ですが、こちらは全国でも進んでいるところですが、当市でも現在移行に向けた検討をしているところです。まずは、中学校部活動について、日曜日の部活動の移行を目指しております。
今出ている内容では、2029年度を目途に移行するという方向性が、教育委員会より示されております。こちらは、段階的に進めるということになっております。あと、5年ということもありますので、そうなりますと、学校部活動でカバーできない部分も出てくると思われますので、学校の先生以外の指導者の確保など、われわれ文化創造推進課の方でどのような支援ができるか検討していきたいと考えております。
- ・2番目の丸、中間支援機能の強化に向けた検討ですが、こちら当市はまだ進んでいない状況なので、他都市のアーツカウンシルの視察を行ったり、そもそもそういったものに求められる役割、全国にアーツカウンシル的な組織があるのは把握しておりますが、八戸市でそのような組織を検討する場合、どのような役割が求められるか、担い手をどうするのか、行政の関わり方を含め検討していきたいと考えております。
- ・以上で説明を終わります。

(委員長)

- ・はい、ご説明ありがとうございました。
- ・令和7年度ということで、来年度の方向性について説明がありました。

今の説明について、何かご質問・ご意見はございませんか。

(委員)

- ・ 最後の中間支援機能の部分ですが、前の会議でも、ここの部分を強化していかなければならない、未着手の状態なので未達成となっており、大事な所だと思います。
さきほどの学会の話と関連付けますと、文化政策学会の研究大会のときに、この一つのシンポジウムが、アーツカウンシルに関することで、全国の状況の報告について報告がありますし、太下委員長からは、アームスレングスは本当に機能するのか、といった理論的な話もされて、全国のアーツカウンシルの事例紹介があって、まだ仮ですが、信州アーツカウンシルと沖縄の事例について現場から発表にいらっしゃるので、八戸市での来年度の検討にちょうど良いタイミングかと思いますので、ぜひお聞き頂ければと思います。
- ・ なかなか、一律にアーツカウンシルにはこのような役割が求められるとか、これがベストな形だ、というようなことは決まっておらず、地域の実情に応じてなので、視察なども、どこに行けば八戸の参考になるんだろうか、というような部分が難しいと思います。
- ・ 今、やられてきたような、プラットフォーム作りの延長にあると良いのかな、と思いますので、じっくりと検討していけば良いのではないかと思います。
- ・ 委員長の考えもおありかと思いますが、ちょうど良いタイミングでシンポジウムもありますので、ぜひという宣伝も兼ねての発言でした。

(委員長)

- ・ はい、ありがとうございました。他に何かございますか。

(委員)

- ・ ちょっと、観光関係で質問です。すでに言い古されたことかと思いますが、街なかに八戸の歴史を伝える施設があまり無いと思います。
縄文館は是川ですし、根城の博物館が恐らく中世と近世を担っていると思いますが、確かに中世までは根城が八戸の中心ですが、近世以降はこの街なかが八戸の中心であったと思いますが、この街なかに関しては、近世以降の歴史について学ぶものが全く無いというところが、最近、観光客の方とか、外国人も含めて来たときに、やはりそれを伝える所が無いということが、今始まった問題では無いと思いますが、やはりすごく大きいなあと思います。やはり、何か語れるものがあるということが、

観光の質を高めると思いますので、皆さん、街なかに泊っていますし、ホテルも飲食店もここに集中していますので、それに対して何か考えとか方向性とかあるのか、それとも特に無いのか、どうなのでしょう。

(観光文化スポーツ部長)

- ・観光文化スポーツ部長の工藤です。本日は、会議にご出席いただきましてはありがとうございます。

ご質問にお答えいたします。

- ・確かに、中世は根城にあって、それより前の縄文は縄文館にあって、いわゆる八戸藩のお城がここにあった、八戸南部藩の歴史を伝える場所は実は無くてですね、少し近い場所ですと、はっちがあります、はっちですと、近代以降の先人を中心にして八戸の歴史を語っているということで、江戸時代がすっかり抜けているというのは事実でございます。
 - ・その一方で、中心街自体をウォーカブルにするということで、いろいろ今進んでおりますけれども、教育委員会が標柱を設置し、辻々に八戸の歴史を語るものを建てており、あれは江戸の街並みを含め、いろいろ解説をしたものが建っておりますが、老朽化しています。それから、はっちも開館から14年経っておりますので、内部の展示を変える時期にきていると思われまので、委員のご意見を受け、一定の意見募集をするべきなのか、さらにデジタル技術を使って、地域内を回遊していけるような場所に情報を発信する場所をつくっていくのか、いろいろ考えがございますので、観光にも繋がっていく部分でもありますので、意見として受け止めて検討していきたいと考えております。
- 以上です。

(委員長)

- ・いくつかありますよね、安藤昌益資料館もそれなりに面白いし。

うまくつないでいくと、今は見えない歴史が見えるような感じになれば良いですね。

そうしたときにリアルだけでなくデジタルも使うと良いかもしれませんね。

メタ観光という言葉がありますね。ウェブで情報を得ながら、昔の情景なんかをリライブ（追体験）するという。

- ・ほかにご意見・ご質問はございますでしょうか。

(観光文化スポーツ部次長)

- ・今の小倉委員からの意見と、太下委員長から文化観光についての話題が前回の会議であって、そして今、メタ観光という話が出ておりますが、実は今、観光振興プランを策定しております、その策定の中でもメタ観光という話題が出てきています。
- ・メタ観光というのは、新しい観光の概念でして、例えば今の小倉委員のお話ですと、八戸の中心街、横丁はあるけれど、例えばはっちや城跡もあるけれど、しかしそれだけじゃない、例えば種差海岸、グリーンツーリズムやヘリテージツーリズムだけじゃないものがあるということを、それをミルフィーユのように、表層的ないろいろな魅力を、まさにメタ、少し上から見て、デジタル化して行って、その延長上に、墨田区なんかやっておりますが、八戸に来ていなくても、八戸を観光したような情報がそれに入り込んでいく、そしてそれを地図に落とし込んでいくという取り組みですので、小倉委員からのご意見、またさきほどの部長の工藤からの話を含めまして、メタ観光とウォークアブルには取り組んでいきたいと考えております。そして、結果、これは太下委員長にも後で、計画の作り方をご相談したいと考えておりますが、文化観光そのものについて、種差も文化観光の一つになる、というような取組ができるんじゃないかなと思います。

(委員長)

- ・ほかに何かご意見・ご質問はございますか？
- ・この資料の中に、文化観光推進法に基づく、地域計画の策定を進めると明言していただいておりますので、ぜひ進めていただければと思います。
ご案内の通り、これが認められると、それなりにまとまった金額の補助金が出ますので、5年間の補助ですと、結構いい内容の補助だと思います。
なお、これは文化振興というより、観光振興という側面がありまして、それで観光客がどれだけ増えるのか、というようなことは聞かれますが、それをうまく受け止めながら、うまく使っていただければと思います。
- ・あと、下の方の施策、つなぐ・ささえるという部分も重要だと思います。さきほど朝倉委員からもありましたけれども、日本でいろいろなアーツカウンシルが来ておりますが、本当に千差万別で、どれが正解ということも無いので、そうはいっても、行政としてはきちんと調べて進めて行って、大義名分が必要なので、事例の研究は必要かもしれませんが、たぶん参考にならないと思います。
- ・私としては、今「アート広場」で、プラットフォームづくりというのを進めている訳ですから、そして現実にはいろいろな取組をされている方が八戸は本当に多い。

たぶん、同規模の他の自治体と比べて、段違いに多いと思いますので、そういった意味で、「人」に恵まれた都市なので、うまくそれを繋いでいけば、繋いでいくという意味は、そこに何らかのプロジェクトを起こしていけば、何かそのような組織がうまく出来てくるのではないか、と思っています。

で、そのプロジェクトというのは、たとえば部活動の地域移行をやらなければならないとなった際に、たぶん行政だけでは抱えきれない、そうなった場合に、実際に地場でやられている方とどう組むか、まさにそれは中間支援機能ということになってくる訳ですね。

- ・あと、文化観光についても、行政が全部抱えることができない。小倉さんのようにすでに活動をされている方とどのように組んでいくか、これもまさに、他の街には無いけれども、アーツカウンシル的な機能となってくると思います。
 - ・あとは、前半の上半期の報告にありました、共生社会とか社会包摂の取組の部分でも、いろいろチャレンジされておりますが、介護職含めて、行政だけではできない、これもすでにやられている方々と、どのように一緒に組んでいくかだと思うので、少し、工夫するだけで進めていけるのではないか、と思います。
- それは他の街ではやっていないことですよ。すごく八戸らしいし、それができれば、すごく先進的な取組だと思います。
- ・他にご意見・ご質問はございますか。
 - ・今までの議題をとおしてでも良いので、何かございますか。

(委員)

- ・今、資料を配らせていただきましたが、ちょうど来週末ですけれども、今、インドネシアからアーティストを呼んでおりまして、アーティスト・イン・レジデンスプログラムを行っております。これまで、4名のアーティスト、フィリピンから4名来ておりましたが、今回はインドネシアから招へいしました。

かなりインドネシアの歴史とか宗教の遺産に関連した作品を作っているアーティストで、海外に来るのも初めてということで、どうなるかなと思いましたが、八戸では神社に行っていて、本人はイスラム教徒ですので、そういった目線で見ると、いろいろな仕草だとか、何にスピリチュアル性を感じるかなどについて、新鮮な気持ちで見ているようで、すごく面白いなと感じております。

その成果の展覧会と、インドネシアのそういった若いアーティスト達の動きが、コレクティブという形で最近注目されているんですけれども、コレクティブの研究をされ

ている羽鳥さんという、インドネシア美術の研究者の方をお呼びして、最後トークイベントも行う予定です。

もし、お時間ありましたら、ぜひご参加ください。

(委員長)

- ・他に情報提供とかあれば。

(委員)

- ・今、メタ観光を調べたところ、もしよろしければ「はちのへヒストリア」を活かすことも検討していただければと思います。

(委員長)

- ・メタ観光を推進している、機構は一般社団なんですけれども、その中心人物はみんな、私の知り合いです。なので、必要がありましたら、繋ぐことは可能です。
- ・他に何かございますか。
- ・よろしいでしょうか。それでは、皆さんご協力ありがとうございました。
これで会議の議事は終了といたします。
進行を事務局にお返しいたします。

(事務局)

- ・太下委員長を始め、委員の皆さま、本日はありがとうございました。
- ・次回の会議ですが、来年2月ごろを予定しております。具体的な日時につきましては、改めて委員の皆さまにご相談させていただきますので、よろしくお願いいたします。
- ・以上を持ちまして、第2回はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード会議を終了いたします。